

スクリーニングで発見された児の経過 特に病型決定困難な児について

日本大学医学部小児科 北川 照男
松浦 幹夫

東京都におけるクレチン症スクリーニング実施以来、当院外来受診した児の経過につき報告する。

対象 口紙 TSH 高値を主訴に来院した児は、昭和57度2月現在で12例、性別は男児6例、女児6例である。

家族歴で父27~37才、母26~32才で同胞を有する者2例と比較的高年令初産の例が多かった。甲状腺疾患を有する者はなく、母の抗甲状腺抗体(マイクロゾームテスト)陽性例は2例であった。児の内訳は、高 TSH 血症3例、一過性甲状腺機能低下症2例、異所性甲状腺4例、甲状腺腫性甲状腺機能低下症1例、経過が非定型的な病型不明例が2例である(表1)。病型不明例につき精査を加えた(図1,2)。

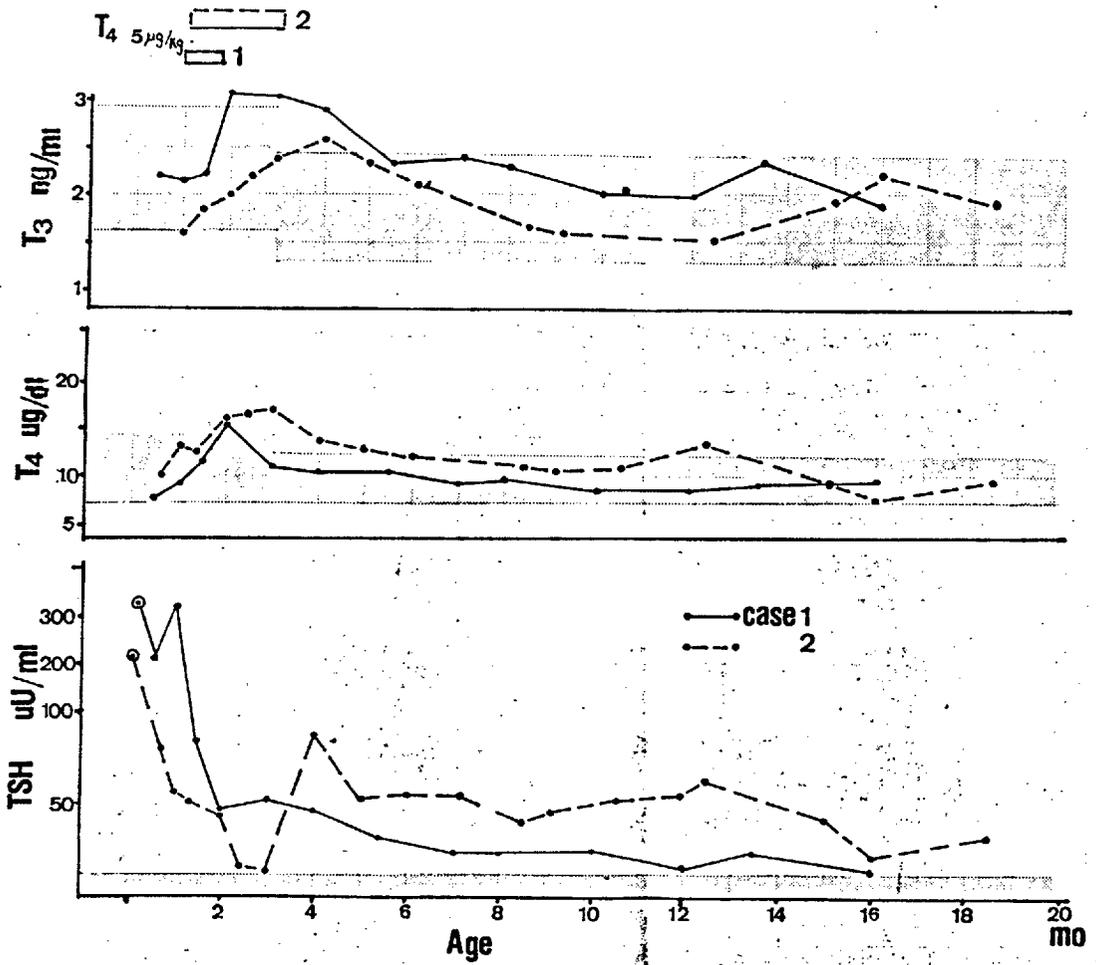
症例1は、現在1才4カ月の男児、母児ともにマイクロゾーム抗体陽性、受診時、TSH 204 μ U/ml、T₄ 7.4 μ U/dl、T₃ 1.6ng/ml、TBG 28 μ g/ml、甲状腺シンチ正常、生後1カ月時 T₄ 5 μ g/kg 投与後 TSH 49.5 μ U/ml と減少し以後漸減したが、現在 TSH 13 μ U/ml、T₃、T₄ 正常であるが Free T₄ 0.73 ng/dl と低下傾向有り、甲状腺剤投与を開始した。

症例2は1才7カ月の男児で受診時の血中 TSH 79.4 μ U/ml、T₄ 13.4 μ g/dl、T₃ 1.6ng/ml、TBG 30 μ g/ml で甲状腺シンチに異常なく、生後1カ月に T₄ 5 μ g/kg 投与により TSH 15.4 μ U/ml まで減少したが中止後再上昇し以後高値を持続しており、現在 T₄ 7.3 μ g/dl、Free T₄ 0.92ng/ml と正常域低値、しかし図2のように TRH テストでの高反応が長期にわたり持続し、やはり甲状腺低形成をうたがいが T₄ の投与を開始した。症例1は身長、体重がやや遅延している。このような病型不明例は Free T₄、TRH テストなどの結果をくみあわせて充分観察してゆく必要があるものと思われる。

表一1 TSH 高値を主訴として外来受診した児の臨床・検査データ
(日大医学部, 小児科)

NAME	AGE	SEX	CLINICAL SIGN	BIRTH WEIGHT	on admission	TRHtest	T ₄ ug/dl	T ₃ ng/ml	TBGug/ml	antithyroid
			DFCmm		TSH uU/ml					
hyperthyrotropinemia										
T.Y	7mo	F	-	3480 g	14.3(122)		8.5	2.3	28	-
H.Y	4mo	M	-	2860	26.5(48.5)		9.6	2.1	28	-
S.N	10mo	F	-	2540	21.6(58)	12.2/70.5	12.3	1.6	26	-
transient hypothyroidism										
Y.S	1y9mo	F	-	3230	54.8(44.8)	6.5/32	5.8	1.7	25	-
T.O	7mo	F	-	3330	21.3(43.1)	5.2/29.7	5.8	2.3	24	-
ectopic thyroid										
E.O	1y5mo	M	+	2350	681(320)	681/1400	2.5	0.8	27	+
A.K	1y	F	-	2350	91.3(80)	97.6/452	6.5	2.0	27	-
K.M	8mo	F	-	3560	115(81.5)		4.9	1.5	27	-
E.S	1mo	M	-	3690	*330(220)		9.8	2.5	32	-
goitrous										
T.S	1y11mo	M	+	2880	125(105.1)	5.4/31.9	3.1	2.12	24	-
others										
R.K	1y4mo	M	-	2680	204(320)	320/614	7.4	1.6	28	+
S.T	1y7mo	M	-	4060	79.4(220)	56.5/313	13.4	1.6	30	-

()内は口紙 TSH のデータ
TRH テスト 前値/頂値



図一 病型不明にて長期間 TSH 高値を示した症例の経過

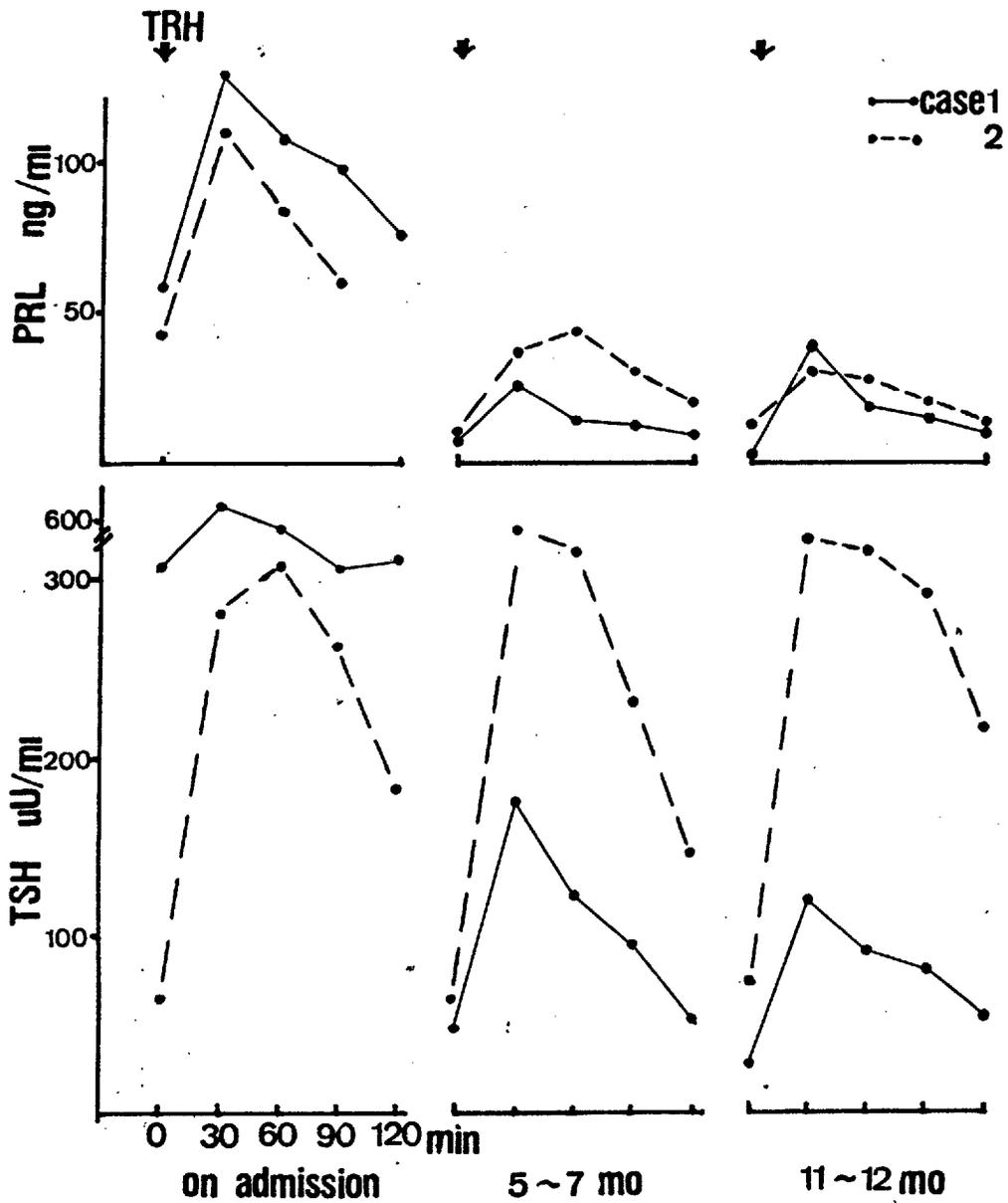
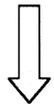
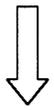


図-2 病型不明にて、経過を追い TRH テストを実施した結果
PRL: プロラクチンの略



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



東京都におけるクレチン症スクリーニング実施以来,当院外来受診した児の経過につき報告する。対象口紙 TSH 高値を主訴に来院した児は,昭和 57 度 2 月現在で 12 例,性別は男児 6 例,女児 6 例である。